

さいご 住み慣れた地域で最期まで 自分らしく暮らすために

—在宅医療・介護連携推進事業の取り組み—

高齢福祉課地域包括ケア推進係 ☎(63)2175

11月30日は「人生会議の日」

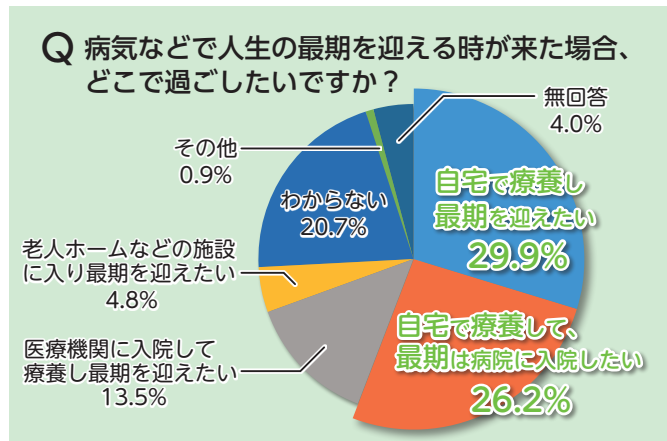
人生の終わりにどう過ごしたいか? 「もしも」のときのための「人生会議」。自らの最期に望む、医療やケアについて話し合ってみませんか?



●人生の最期をどこで過ごす?

右のグラフは、令和元年に実施した「鹿沼市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」(療養に関する設問)の回答結果を表したものです。

全ての人にやってくる人生の最期。「医療や介護が必要になっても、住み慣れた地域や自宅でいつまでも自分らしく暮らし続けたい」そう願う人が少なくないことが読み取れます。

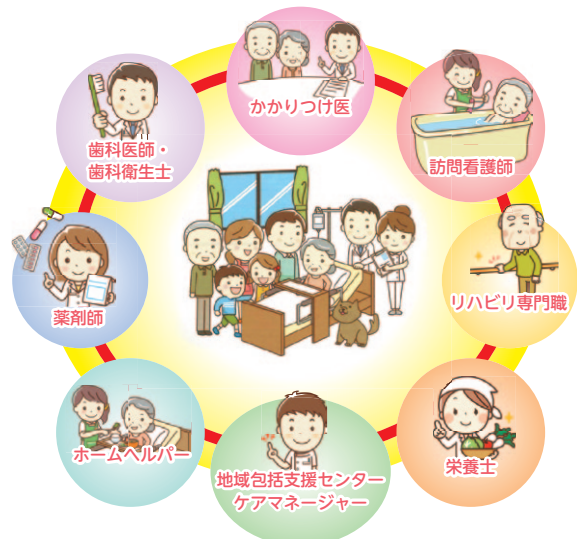


●連携して在宅療養を支えます

市では、在宅療養を支えるために、地域の医療や介護の専門職が連携してチームをつくり、本人とその家族をサポートする体制作りを推進しています。(在宅医療・介護連携推進事業)

在宅療養について、詳しくは地域包括ケア推進係へご相談ください。

在宅医療・介護連携推進事業のイメージ



【用語解説】在宅医療とは…

通院が難しくなったとき、かかりつけ医の訪問による診療を受けながら、自宅などの住み慣れた場所で療養を行うことです。

家族の在宅療養の経験談

入退院や転院を繰り返してきた父は、最期を迎える際に在宅での療養を選びました。入院先の看護師さんに、「家に帰りたい」という両親の思いを理解した上で後押ししてもらい、自宅での療養に踏み切りました。在宅療養では、訪問診療での診察・訪問看護・訪問介護・訪問入浴などを利用しました。医療と介護が連携した支援を受けることで、安心して過ごすことができました。

木工関係の仕事をしていた父が自分で建てたこだわりの自宅で、人生の最期を家族や愛犬と過ごし、また亡くなる前日まで近所の皆さんが父の元を訪れてくれました。両親の希望を叶えることができたことは本当に良かったと思っています。



柴原久美子さん(上石川)